



ケニア選手事前キャンプ

オンラインで交流も



久留米産ブドウで食の交流

道の駅くるめが、巨峰、みのうびナスなど久留米産ブドウ36パックを差し入れました。昼食にブドウを食べた選手は、「ケニアでは高級品。なかなか食べる機会はありません。久留米のブドウはSo Sweet!(とても甘い)」と喜びました。



7月10日から24日まで、ケニア共和国のオリンピック選手団63人が事前キャンプを行いました。バレーボール女子、7人制ラグビー男子・女子、陸上男子・女子の選手が市内の各施設で練習。17、18日には市民の皆さんに練習を公開。手作りの応援グッズで子どもたちが観客席から応援。選手も笑顔で応えました。

13日から16日には、市内の小学校15校と高校3校の児童生徒がケニア選手団とオンラインで交流も。画面越しに練習風景を見たり英語で質問や応援メッセージを送ったりしました。

女子バレーチームキャプテンのマーシー・モイミさんは「コロナ禍でのオリンピックは選手にとって過酷。久留米の皆さんとの交流は、リラックスやモチベーションの向上にもなりました。皆さんへの感謝は、試合で活躍して返したいです」と意気込みを語りました。

◎体育スポーツ課 (☎0942・309226、FAX 0942・302259)



スタート位置やフォームを入念に確認、本番に向けて調整していました



長い手足を生かしたレシーブや強烈スパイクを打ち込みます



大きな掛け声に力強いタックルやスクラムは圧巻です

市民協働で外来種対策

捕獲器具の貸し出しも

生活環境への影響

元々その地域にいないのに、人によって持ち込まれた生き物によって外来種といえます。在来種を食べたり餌やすみかを奪ったりするなど、生物多様性に悪影響を与えます。毒を持つ外来種にかまれる、屋根裏などに住み着く、田畑を荒

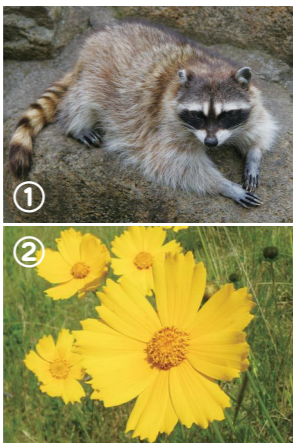
らすなど私たちの暮らしへの被害も起こっています。

アライグマの被害が拡大中

久留米市では、近年特にアライグマの被害が拡大しています。平成30年度の捕獲数は13頭でしたが、令和2年度は87頭にまで増加。繁殖力が強く、継続的な駆除が必要。鳥獣は原則、捕獲が禁止されていますが、アライグマに限り申請すれば可能。捕獲器具を無料で貸し出しています。

外来種の被害を予防し、拡大を防ぐためには、一人一人が外来種を持ち込まない、ペットは最後まで責任を持って飼う。すでにいる外来種を他の地域に持ち出さないことが大切です。

◎環境保全課 (☎0942・309043、FAX 0942・309715)



提供 環境省

2 環境シリーズ「自然共生社会の構築」 生物多様性



年間4万種の生き物が絶滅

さまざまな生き物の個性やつながりを生物多様性といいます。水や空気、食べ物や衣服、薬の原料の他、土砂崩れ防止など多くの生物のめぐみに支えられて私たちは生きています。地球上には約3,000万種が存在していて、人間の活動の影響で年間約4万種が絶滅しているといわれています。生き物のつながりを知り、自然保護活動に参加するなどの行動が、生物多様性を守ることにつながります。



さまざまな生き物が身近にいます

今、私たちができること

☑ 生き物に優しい商品を選ぶ



☑ 身近な生き物を観察して、生態を知る



☑ 自然保全・保護活動に参加してみる



◎環境保全課 (☎0942・309043、FAX 0942・309715)